

草加市議会議員 草加育ち

# 川崎ひさのり

かわさきひさのり プロフィール

昭和46年2月生まれ 55歳

草加市立両新田小学校→両新田中学校→越谷北高校→獨協大学法学部卒業

総合警備保障株式会社、株式会社すかいらくでの勤務を経て独立。キャリア支援事業を展開。

【資格】・国家資格キャリアコンサルタント ・AFP ・防災士 ・介護福祉士 初任者/実務者研修修了

【趣味】・ブラジリアン柔術(野武士所属) ・ギター ・ドローン(二等無人航空機操縦士資格保有)

「保身」から「挑戦」へ

「ごまかし」から「誠実」へ

## 令和8年度 草加市の予算の課題とこれから

### 草加市の予算 未来まで見据えているのか？

本市の財政については、**経常収支比率**を一つの指標として評価するならば、**県内ワースト1位**、全国でも下位に位置しており、財政の硬直化が大きな課題となっています。

経常収支比率とは、人件費や扶助費、公債費など毎年必ず支出される経費が、市税などの経常的な収入に対してどの程度を占めているかを示す指標であり、この比率が高いほど自由に使える財源が少なく、財政運営の柔軟性が低い状態を意味します。

また、**財政調整基金の取り崩し**を前提とした予算編成が続いている点についても、将来世代への影響を踏まえ、慎重な対応が求められます。

一方で、類似団体と比較すると、多くの歳出項目で水準を下回っており、コスト管理が図られている点は評価できます。その中で、**補助費等**が相対的に高い状況にあることから、今後はその内容の精査が必要です。

あわせて、予算執行にあたっては、単年度主義のもとで「予算は使い切るもの」との考え方にとどまるのではなく将来に備えて**必要な余力を確保する視点**も重要です。状況によっては、あえて支出を抑制し、基金の積み増しや財政の弾力性を高める判断も求められます。

なお、水道・病院・保険等といった公営企業会計についても、一般会計と一体的に捉え、市全体として**持続可能な運営**を図る必要があります。

現状では中長期的な財政見通しが十分とは言えず事業の優先順位や抑制の基準が分かりにくい側面があります。

**明確な目標設定と中期財政計画の策定により、計画的な財政運営を進めるべきと考えます。**



8年度予算の討論  
議会中継  
(YouTubeショート)

